

平成22年度 第4回 読書のまち八王子推進連絡会議 会議録

日時 平成23年2月23日(水) 午後6時00分～8時00分

場所 八王子市中央図書館 3階 会議室

出席者氏名

委員

三浦 眞一 山崎 久道 斉木 治枝 小林 恵子
鈴木 康弘 野口 佐和子 松葉 由理子 大東 有希
大橋 道代 常盤 義輔 穂坂 敏明 木内 雅彦

欠席委員

黒田 八千代 斉藤 和巳 遠藤 護人 田中 大吾

事務局

望月中央図書館長 中村生涯学習センター図書館長
田中南大沢図書館長 石井川口図書館長
中央図書館 樋口主査 一杉主査 綾主事
生涯学習センター図書館 田中主査
南大沢図書館 新井主査
川口図書館 松島主査

傍聴人 0 人

事務局(田中南大沢図書館長)

本日はお忙しいところ、平成22年度第4回読書のまち八王子推進連絡会議にご出席いただきましてありがとうございます。

それでは、これより読書のまち八王子推進連絡会議の進行を三浦会長にお願いいたします。

三浦会長

お疲れの中恐縮ですが、第4回読書のまち八王子推進連絡会議を開催させていただきます。

本年度最後の会議となりましたので、本日も活発なご意見をぜひよろしくお願いいたします。

本日の会議につきましては、過半数を満たしておりますので、有効に成立

していることをご報告申しあげます。

黒田委員、斉藤委員、遠藤委員、田中委員は所用のため欠席の連絡がありました。

傍聴人はいらっしゃいません。

会議録の署名委員は、大東委員にお願いしたいと思います。

(大東委員の了解があった。)

それでは、会議資料の確認を事務局よりお願いします。

事務局（新井主査）

恐れ入りますが、お手元の配布資料の確認をお願いします。

会議次第の次から

No. 1. 学校配送便の運行について

No. 2. 南大沢図書館講演会について

No. 3. 手作り本展実施結果について

No. 4. 手話によるお話会について

No. 5. 学校図書館サポート事業の実施状況について

No. 7. 読書のまち八王子推進コンクール受賞結果について

No. 8. 地域文庫の活動状況について

No. 9. 2月補正予算について

No.10. 中央図書館駐車場有料化について

参考資料として「らいぶらりいー八王子図書館報」

以上ですが、不足などありましたらお申し出ください。

(資料の確認が行なわれた)

三浦会長

資料の確認はよろしいでしょうか。

それでは会議に入ります。「学校向け図書貸し出し（配送便）の実施状況について」事務局から説明をお願いします。

事務局（樋口中央図書館主査）

(報告事項1「学校向け図書貸し出し（配送便）の実施状況について－資料 1」を説明した)

学校向け図書館貸し出しの実施状況についてご報告いたします。図書館の図書を学校へ貸し出す配送便については、調べ学習などで利用する資料を図書館へ要望する件数が増加する中で、学校まで配送してほしいという要望に

応え、学校における図書館環境の向上を図ることを目的として、図書館交換便が動いていない時間帯を利用して実施するものです。これまでの経過について、本事業は国の緊急雇用創設事業特例金を使って行うもので、昨年の12月に教育センターが中心となり、図書館、学校教育部の各所管、IT推進室、小中学校の校長を委員として学校図書館のさまざまな問題に取り組む、学校図書館環境整備検討会を発足し、その中で学校図書館の学校配送便が議題として上げられました。学校側の意見も取り入れ、議論を重ねた結果、各校に対して、配送希望日と希望図書について調査を行うことになりました。その旨を学校配送便のPRも含め、10月下旬に小中の校長会と副校長会で説明したというのが経過です。11月に実際の希望調査を行い、日程を調整して各学校に配送日を通知し、12月7日からスタートしました。メール便についてはシルバー人材センターに運転代行を委託し、火～金までの14時～17時の時間帯に配送するという形でスタートしています。これまでの実施状況は、配送希望校は小学校31校、中学校3校の34校で、2月までの巡回校数は小学校84校、貸出し冊数は3,786冊、中学校は10校307冊の計94校、4,093冊となっています。用途別貸出数は、調べ学習2,074冊、学校文庫2,019冊、計、4,093冊となっています。3月までに見込まれる数は、平成22年度9,300冊が見込まれており、昨年度の6,545冊に比べ、約4割の増となる見込みです。平成23年度についても国の補助金を申請し、事業を継続していく予定です。

三浦会長

事務局の説明は終わりました。ご意見ご質問などありましたらお願いいたします。

山崎委員

1つ教えていただきたいのは、小中学校で調べ学習で利用する資料を市立図書館に要望するということが、図書館から届けるということ結構な事業と思いますが、本を探す、蔵書を検索するというのはどなたがやっているのですか。学校の先生がやっておられるのか。それに対して図書館が何らかの支援をしているのでしょうか。本の選択に関しても支援が出来るのではないかという気がするのですが、いかがでしょうか。

事務局（樋口中央図書館主査）

先生からの要望はテーマで言われることが多いので、例えば環境についてといわれても幅が広いので、図書館の担当が先生に直接話しを聞いて、どう

いう分野がほしいのか聞き込みをして、本を選ぶアドバイスをしています。

山崎委員

図書館でやっているレファレンスサービスの一種の学校に対するサービスという意味合いもあるということでしょうか。

事務局（樋口中央図書館主査）

あと、現在本の蔵書について整理が出来ていないので、どういう本があるかということ先生に伝えられれば、逆に先生のほうから選べるケースも考えられますが、その辺もこれから蔵書をまとめて学校へ伝えて行きたいと考えています。

事務局（中村生涯学習センター図書館長）

図書館のシステムの更新を予定しています。その中で来年度4月1日から図書館のホームページのリニューアルをする予定です。その中に入り口を設けて学校貸出用の本が検索できるというページも設けるので、学校で選んでこちらで届けるという仕組みが4月以降できます。

野口委員

私たちが鉄道関係の本が借りたいとか、日光関係の本が借りたいとかというようにお願いしてしまっています。わからないことがあると、こんな本がありますというように電話では問い合わせいただきますので、4月から検索があると助かります。

事務局（中村生涯学習センター図書館長）

4月からすぐにはできませんが、使えるようになったらお知らせすると思います。

三浦会長

よろしいでしょうか。それでは、報告事項2「図書館企画事業の実施結果について」それぞれ事務局から説明をお願いします。

事務局（新井南大沢図書館主査）

南大沢図書館では、「～子どもと本を結ぶ～」をテーマに毎年講演会を実施しております。今年度はつきましては、絵本作家の「とよたかずひこ」さんをお招きして、「紙芝居・絵本の読み聞かせを通して自作を語る」と題して、平成22年

12月1日（水）午後2時から4時まで生涯学習センター南大沢分館におきまして講演会を実施いたしました。「とよたかずひこ」さんは、子どもと一緒に気軽に聞くことのできる講演会をあちこちで精力的に行われている人気のある絵本作家で、募集人員60名の会場に満員の方がお集まりくださいました。

当日は、講演会が始まる前からとよたかずひこさんご本人が会場にいらして会場に集った親子に声をかけてくださり、読み聞かせもただ単に読むだけでなく、前もって集まった子どもたちの名前まで聞き出して、あれこれ声をかけながら読み進んでいきました。

別紙資料のとおり終了後のアンケートでも46名中、大変良かった40名、よかった4名、ふつう1名、無回答1名と読み聞かせをしていく上でも大いに参考になったと、大変好評でした。

今後もこういった読み聞かせなど、実際に子供たちと対している方に一人でも多く参加していただける講演会が開催できるようにしていきたいと考えています。

事務局（樋口中央図書館主査）

第32回手づくり本展の実施結果について、市民が文章や絵や製本などを創作した手づくりの本を公募し、展示することで本に親しみ愛着を持ち手づくりならではのよさを知る機会として、昭和54年に八王子手づくり絵本の会が実施し、昭和61年から本市が主催となりました。八王子図書館ボランティアの会と本市の共催事業として、本年度32回を数える歴史ある催し物となっています。今回目玉として一小のサタデースクール、上川口小の読み聞かせ隊が作成した大型絵本ということで展示があり、来場者からも大変な好評を得ています。今後についても出品数や来場者を増やすための努力をしていきたいと考えています。

事務局（綾中央図書館主事）

手話によるお話会について、聴覚障害のある方も本に親んでもらおうと、手話で絵本などを話すことを目的に、6回開催して、ろう学校の春・夏休みの間に開催し、6回目は読書フォーラムのワークショップで行いました。今までの経過は、平成20年8月市内の聴覚障害のある子をお持ちの保護者の方から、手話でお話し会をやってほしいと要望がありました。私も聴覚障害があり、そういうサービスができないかと考えていたので、ぴったりと思い実施させていただくことになりました。最初から3回まではこの保護者のグループを対象にし、4回目からは図書館の自主事業として、こちらからサービスということで行いました。4回目からは八王子市聴覚障害協会から聞こえない市民の方にボ

ランティアとして、話してとして加わってもらうことになりました。お話会は、手話は音声を伴わないので、最初は保護者の方向けに音声をつけていましたが、途中からは音声抜きで手話のみで行っています。昨年5月、市長のタウンミーティングでいろんなお子さんに参加してもらい、それを通して心の優しい子になってもらいたいという要望もあったので、音声をつけましたが、基本的には音声はなく、手話だけです。目を見て話さなければいけないので、全部暗記して実施しています。アンケートを毎回とっていますが、表現力がすばらしいとか、もっとやってほしい、続けてほしいとか、毎回参加している人はどんどん上手になっているとか、お褒めの言葉をいただいています。それと手話をしない人にもアピールになるのではないかという声もいただいています。今後の課題としては、都内でもあまり例のないサービスなので、知っている限りでは練馬の図書館でやっているようですが、それと大阪の図書館でやっているようなので、やり方がわからないこともあります。また日本語と手話も違うところがあるので、うまく翻訳できないところとか工夫の必要なところもあります。アンケートでも小学生向けの長いものを作ってほしいという声もあり、対応していきたいと思っています。開催日はろう学校の春・夏休みの平日にやってほしいという声があり、所管の兼ね合いもあるがそういう日程でもやっていきたいと思っています。参加者が減ってきているので、近隣の都内のろう学校にも通知をしていますが、もっといろんな方にも参加してほしいと思っています。

三浦会長

それぞれ事務局の説明は終わりました。このことで、何かご意見ご質問などありましたらお願いします。

山崎委員

電子書籍というものが普及しようとしている。マスコミでも宣伝されているが、紙の本が要らなくなるという極端な意見も出ている。私が見るところ、最大の問題は、どの本も全部同じになってしまうということです。厚い本、薄い本、軽い本、重い本、紙質、デザインと全部違う、そういうものが全部同じ画面から出てくるわけです。そのときの本から得られる質感、感性というのが電子書籍を使うと落ちてしまうという危惧をしている。その意味でこういう手づくりの本という企画は、電子書籍が普及するときだからより重要な形でアピールするようやっていかれたらいいと思う。世の中便利が全ていいという訳でもない気がして、本というものにある種の畏敬の念を持ったりするのが大事なので、それを育てる活動に、是非していただきたいと思います。

三浦会長

すばらしい意見をいただきました。やられる方も自信を持って進んでいただきたいと思います。

手話についてはいかがですか。

松葉委員

すばらしい活動と思いながら聞いていました。小学校4年生くらいで車イスとかいろんな障害の方について学びをするときがあり、うちの子が手話でゲゲゲの鬼太郎の歌を手話で発表したが、そのとき初めて手話というものに触れたので、できれば小学生でも参加できるような会に広げていただければありがたいと思います。

三浦会長

せっかくなので八王子の中だけで完結させるのはもったいない、かといって都でもそうやっているところがないとなると、手話によるお話会をやっている自治体に呼びかけをして連携するような形で、お互いに教えあえるようなあるいは受ける側の連携組織を作れるように発展してくれればうれしいと思うので、がんばって続けていただければと思います。

他によろしいでしょうか。それでは、報告事項3「学校図書館サポート事業の実施状況について」事務局から説明をお願いします。

事務局（田中南大沢図書館長）

教育センター学校図書館担当よりの資料に基づき事務局から説明します。巡回支援について、重点校23校、小学校19校、中学校4校を毎月訪問し、書架の整理や飾りつけ、読み聞かせの助言などを行ってきました。訪問の日数は2月末現在で214回、ほかに重点校以外からの相談もあり学校訪問を2回、それ以外にも電話による相談の対応もしています。研修会として司書教諭研修を6月1日、9月7日の2回、読書指導員、図書館ボランティア研修を6月1日、6月28日、11月10日、1月19日の4回、教員対象のパワーアップ研修を7月29日に行いました。この学校図書館サポート事業を知ってもらうため、としよえもんを年4回発行しています。また読書フォーラムにも参加し、パネル展示を行い事業の啓発を行っています。調査活動としては昨年10月22日から11月19日の間に図書館ボランティア調査活動を行い、各学校における図書ボランティアの実態把握に努めました。来年度の向けての課題は2年目なのでまだまだありますが、今年度巡回訪問してわかったことですが、訪問する際にその学校の課題が何かということをおおまか把握して、何を必要としているかを校長先生などからヒア

リングして助言の充実をおこなっていきたいと思っています。まだほかにもありますが、司書教諭の研修の充実など今後やっていきたいと考えています。資料の最後にある読書指導員の一覧は21・22年度とついています。21年度は前任者がまとめているので資料の形が違っていています。21年度現在で412名だったのが、昨年5月8日から5月26日に新たに募集をおこなったところ、平成23年2月現在は630名の方々に読書指導員をお願いしています。

三浦会長

大橋委員から何かこれについて報告がありますか。

大橋委員

いいえ、ありません。

三浦会長

先生方はどのように受け止めていますか。ご意見、ご感想がありましたら。

鈴木委員

本校も重点活用校ということで来ていただいていたのですが、思うように行かなかったと反省にいたっています。中学校で読み聞かせをやっている学校があまりない中、本校でも各学期1回、各学年3日間読み聞かせということでやっているが、読み聞かせをやった日は子どもが非常に落ち着いて生活を送るということで、その効用が結構あると改めて感じています。そういう意味でもご援助いただければよかったなと反省しています。

三浦会長

今後も続いていく事業なので、よろしくをお願いします。

野口委員

小教研の図書部に入っていますが、その中でもサポートセンターのことが出てきて、結構宿題が出て次回までにやるのが大変とかが出てきて、大橋委員と話したら小教研の図書部とサポートセンターで対話みたいのをやりたいという話があり、来年ぜひやりたいということですので、よろしくをお願いします。

②後ろに学校の紹介の写真が載っていましたが、この間センターの後ろのほうに貼ってあり、とても良かったので、来年度もお願いします。

大橋委員

第4回研修の事例発表会があった直後だったので、パネルを返しに行くのに間があったので、校長会もあるので見ていただこうと置かしてもらいました。

三浦会長

子どもたちの様子をご報告いただければと思います。

大東委員

年度初めの会のときに申し上げたが、5年計画で全校を回るというのは、学校間格差が大きくなってしまうので、来年度はもっと多くの学校を回っていただきたいと、最初に要望したが、来年度課題がある、課題があると聞いて残念に思っている。学校の問題を校長先生に伺ってやっていくという報告だったが、校長も副校長も手が回らない状態で、図書館が衰退している学校が数多くあるというところで、その診断を学校図書館サポートセンターがやっていただいて、この学校はこのくらいですねというのを見ていただきたいというのをお伝えしたい。

松葉委員

梶田小だが、図書ボランティアはたくさんいるが、読書指導員は0なので校長先生に確認したい。研修を受けているのか。資格は必要なのか。

事務局（田中南大沢図書館長）

読書指導員ボランティア研修年4回という中に、読書指導員として登録している人は研修を受けてもらっている。ボランティア募集は学校にお願いして、学校がボランティアに登録するか聞いて、それが学校に上がってサポートセンターの方にあがってくると聞いている。

松葉委員

現実にボランティアをやっていても登録していない人はたくさんいるということですね。

三浦会長

登録していただくように指導していただいたほうがよいと思う。

事務局（田中南大沢図書館長）

随時受付している。この時期でなければいけないということは、ないようです。

小林委員

私は読書指導員としてやっている。毎年やっているが、21年度は人数に入っていないので、学校の登録にずれがあって、このあいだ研修に伺ったときに用紙に図書ボランティアですか読書指導員ですかという欄があって、「ん！」と思った。学校によっては図書ボランティアという扱いをしているところがあるが、内容としては同じことをやっていると思う。読書指導員と信じ〇をしたが、学校のまとめでずれがあったかと思っている。

三浦会長

学校教育と調整をしていただかないといけないこともあるようだ。お母さん方も変わっていくから指導員として卒業したらどうするのかということもあると思うし、今後の課題と思う。いい形を導き出していきたい。

望月参事

大東委員の意見について、教育センター館長と意見交換をするが、学校図書館を活性化するのにどうするかという点について、一番キーになるのが学校側のほうで、どう学校教育活動のほうに位置づけていくのかが少し前に出てこないと難しいといていた。この重点校も手を上げてもらって、23校になったと思うが、来年度に向けて芳しくないとは聞いている。担当者が学校を回るにしても、素地を学校のほうで作っていただくという両方相まっていたかかないと効果が出ないのではないかという気持ちもしている。いずれにしても学校図書館のインフラ部分については充実を図って、学校のほうでもやる気を持っていただく環境は作っていかないといけない。図書館サイドでいえば来年度学校図書館にパソコンが配置される中で、具体的なネット環境しか聞いてないが、そこから本を蔵書してもらおうとかなども働きかけることはしていきたい。

小林委員

私図書館ボランティアをやっていて、4回目の研修に出させてもらった。そのときの内容として、学校の事例発表を聞かせてもらった。1年間サポートセンターの方々がかかわって学校がよくなった、各学校の方が説明したというのがすごくよかった。そういう資料をもっとたくさんの方に還元し、次回サポートセンターの重点校になるような学校とか、もしくは読書指導員となる人に冊子としてお出ししたほうがよかったのではないかとお願いしておきたい。

大東委員

私のイメージとしては希望している学校に手を上げてもらって、皆さんの意欲、

意欲というので待っていると、どんどんこの計画は衰退していくと思っている。ある程度の教育委員会の強制力というか、図書館を良くしていくという指令を出していただかないと、結局サポートセンターから行っても学校側としては「何でこんなことに」という感じになってしまうととんでもないことになる。負担という感じがしてくるとあつという間に学校間に広まってしまったら衰退になってしまう。重点校になったところのアンケートということも前回言ったが、その辺が残念に思っている。

斉木委員

①読書指導員の名称について、指導員ということに二の足を踏む人がいる。学校の校長なりがその存在を知らないというのが、0で出ているのではないか。全部の学校に均等に周知していただけるようなシステムをしていただければ変わってくるのではないのでしょうか。

②指導員という名称、研修は指導員に登録している人向けということだったが、ボランティアの方誰でもどうぞとなっている。そういう工夫をしてくれるとこういいう講演が聴けるんだったら来年登録しようかなということになると思うので、学校へ来る書類がいき渡ってないということも知っていただけたらいいと思う。

三浦会長

名称でいいものがありますか。

斉木委員

今週月曜日に学校側から来年度重点校にエントリーしようかなという話があったが、ボランティアの人は「それは何」ということがあった。まだまだサポートセンターが出来てこういう活動をしているというのが知られていない。図書エモンも小学校には置いてなかったし、いい資料がいきわたっていない気がする。もう少し行渡る方法があればと思っている。学校側がどういう図書館にしたいということがないと、私たちもどうアプローチしていいかわからない。アピールをお願いしたい。1年というのはびっくりした。継続性がない。1年で何が出来るんだらうということ。若干不安に思っているところがあったので、もし余裕があれば本年度23校のボランティアも変わる、先生も変わる中での継続的な見守りがあるといいなと思いました。

小林委員

読書指導員の募集の時期が5～6月と遅い。出来れば新年度早い時期に登録できればよく、それまでは前年度のものがボランティアとして図書室にいてやって

いる。校長、副校長、図書の先生が換わったとき図書ボランティアの人がわかりやすいよう早めに募集をかけてもらいたい。

三浦会長

学校教育に対する要望が多いですね。

大東委員

としょえものの提案で、A3と大きいのが、各学校で増刷りということを見ると、A4両面のほうが増刷りしやすいと思う。

大橋委員

今、来年度の募集をかけている。今年度いった学校は来年度いかないということだが、今年度の中のかなりの学校から来年度もきてほしいという声をもらっている。やってみて無駄でなかったと思っている。そういうことがうまく伝わっていかないといけない。問い合わせで1年間何をしてくれるのかというのが多いので、1校1校営業に回らないといけないかと感じている。何か負担が増えるのではないかと思われて、今年度は〇〇があるからとか、今年度は勘弁してくださいとか言われる。その辺の情報がきちんと伝わるようにならないといけないと考えている。

木内委員

①活動状況調査まとめの裏面に、活動内容3の図書館の環境整備について、カのところの図書館の開閉館の小4、中12校というのが出てくるが、活動実績のない中学が14校あり、38校のうち14校で残り24校のうち12校の図書館の開閉館がこの人たちにやってもらっているということは、残り12校は常時開設し、残り12校は誰かが開け閉めしないと使えない状態になっているということか。夏休み期間中だけその人たちをお願いしているということか。これによって捉え方が違ってくる。

②この結果を見て、図書館としてどうするのか。3番の活動内容を見ると読み聞かせ小で56校、中で3校となっているが、これからどうやっていくのか。せっかく小学校で盛り上がったのに中学校でしぼんでしまうのでなく、中学生になったら読み聞かせのボランティアとして小学校へ行ってしゃべるとか、それによって中高生の読書離れを防ぎたいという思いがあれば、中学校に力を入れてそういう活動を広げていくことも考えられるのではないか。その辺の考えがあればお聞きしたい。

三浦会長

次の会合のときに報告いただくということによろしいですか。

大東委員

開閉のことについて、3中では図書委員会の生徒がカギを開け閉めしている。そうしたことも中学校の場合多いかなと思う。

斉木委員

6中では図書サポーターの子か司書教諭の先生が開閉している。何かの事情でボランティアが行かない日があったら閉まったままです。放課後の開放も利用者が少ないのでやめたが、ここでまた開けたほうがいいというので放課後の開放もやっているが、それも学校からの要望があってサポーターが入った日のみということで、カギは常時閉まったままです。

三浦会長

細部については、次回担当が来たときに報告いただきたい。

あえて一員として一言苦言を申し上げたいが、徹底されないことの一因の一つは、大人のずるさだと思っている。預かったものの返事が返ってなかったり、見たような降りをして実際には読んでなかったり、こういうのは大人のずるさだ。こういうものが学校教育の中に出ているのではないか。せっかく資料を配布しても父母の元へいかないのは、大人として真摯に反省しなくてはいけないと思う。そういうことを反省していただき、いいほうでこの問題が前に進められるようにしていただきたいということを学校教育部のほうへ伝えてもらいたい。教育委員会全体の問題として理解願いたい。

三浦会長

よろしいでしょうか。それでは報告事項4「みなみ野分館地区図書室の利用状況について」常盤委員から説明をお願いします。

常盤委員

由井市民センターのみなみ野分館は、片柳学園第3学生開館の2階にみなみ野分館がオープンした。この中の一室に地区図書も昨年11月にオープンしている。面積は195㎡、16地区の図書室の中でも大きいほうに入ります。蔵書は9,250冊、平均的なものです。運営については地域住民協議会さん、市民の団体に運営をお願いしており、水、木、土の3日、2～4時までの間開設している。11月から1月の利用状況は、貸し出し数3,976冊、これについて今までの

16館を平均すると7、200冊あるので、3ヶ月間で半分以上の利用があるということで、駅が近く、利用も多い。今貸出しできるのは開設時間だけだが、市民センターがオープンしているときは閲覧は自由にできる。ただ、地区図書室なので開設時間についてもレファレンスサービスはなかなか出来ないが、利用者は大変多い。この図書室の特色として、地域に小さいお子さんが多いので、中央館から児童書の充実を図ってもらい、図書室の中に子どもが裸足で遊べるようなスペースもあり、そこでお母さんと一緒に本を読めるという環境になっている。スペース的にもゆったりしてこれからも利用が増えると思っている。

三浦会長

常盤委員の説明は終わりました。このことで、何かご意見ご質問などありましたらお願いします。

大橋委員

今までのみなみちゃんはどうなっているのか。

樋口主査

みなみ野分館が出来ると同時に本を持っていったが、少し残っている。

三浦会長

一部残してみなみ野分館へ移動し、本の貸し出しについてはみなみ野分室が中心になってやっているということですね。

中村館長

みなみちゃんについては、子育て支援センターが独自で管理する形になり、今まで貸し出していたが、館内での閲覧のみになる。本については半分くらい残っているので、今までと同じような形になっている。

三浦会長

よろしいでしょうか。次は報告事項5「読書のまち八王子推進コンクール受賞結果について」、松葉委員から説明をお願いします。また、受賞作の展示について、事務局から説明をお願いします。

松葉委員

応募総数496作品、全体の応募率が3.15%、団体賞が3校、上川口小、提出率52.8%、2位由木西小42.1%、3位館小21.5%という結果

になった。個人賞は優秀賞5名は、保護者4名、先生1名、入賞は先生4人保護者が一人となっている。残念ながら先生の出す割合が少なく、先生方は自分の書いたものを人に評価されるのはなかなかいやということで、梶田小もそうだが出してくれたのは校長、副校長、図書担当の先生だけという結果だったので、次年度はテーマを変えていきたいと考えている。個人賞の優秀賞は読売新聞でもかなり大きく掲載された。今回の3校は非常に世帯数が少なく、おのずと応募率が上がったということで、今回はこの辺を考えながら別のテーマでやっていきたい。

小P連に加入していない学校に対してインフォメーションが足りないのではないかということについて、校長、副校長会に話しはさせていたが、小学校にポスター、案内を全校に配布しているので必ず届いてはいるが、どの時点でとまっているかわからないが、次年度も行う予定でいる。

松島主査

入選作品の展示について、1月13日から17日までそごうを会場として開催された市立小中学校合同作品展のおおるり展で展示されていたが、このたび市内4つの図書館においても展示し周知を図ることとした。優秀賞5点、入選10作品を図書館主催で行われた第6回読書感想画コンクールの入選作とあわせて展示する。中央は、1月29日から2月6日まで、現在は南大沢図書館で3月20日までの予定で展示している。(別紙写真あり) 4月1日から4月29日まで川口図書館で、5月1日から5月31日まで生涯学習センター図書館で展示する。(資料のミスプリあり) 図書館のホームページでも掲示し、小P連のページなどリンクを設けるなど今後の連携強化を図っていきたいと考えている。

三浦会長

ありがとうございました。このことで、何か、ご意見ご質問などございましたらお願いします。

小林委員

南大沢図書館を見てきました。よく展示されていました。

三浦会長

アンケートはとっていないのですか。

事務局 (中村館長生涯学習センター図書館長)

アンケートは取っているが、まだ集計はしていない。

三浦会長

結果が出たら報告願っていただきたいと思います。

大橋委員

タイトルが第1回読書のまち八王子推進コンクールで、私たちが巡回していたら私たちがやっていると勘違いした学校が結構あった。タイトルに小P連主催などつけてもらおうとそういうことがなくなると思う。

この協議会がやっているんじゃないかと、私が委員をしているのを知っている人が言っていた。小P連と入れたほうがいいと思います。

斉木委員

私も書いてみようかと思ったが、私立小学校在籍児童の保護者となっていた。ボランティアは資格がないということですか。

松葉委員

今回は在籍しているPTAの方という形で行った。

三浦会長

よろしいでしょうか。それでは報告事項6「地域文庫の活動状況について」大橋委員から説明をお願いします。

大橋委員

資料8 昨年秋の読書フォーラムのときに文庫連として参加したときのチラシもなかったので、一日文庫体験としてふだん文庫でやっていることを実施しましたということでこれを出させてもらった。子どもと本をつなぎたいということで、みなみ野の中の図書館を借りて行った。文庫連では図書館が遠い地域ということで、文庫連の重点地域として売り込みにいっているみなみ野小の学校図書館を使って講演会をしました。もう一枚は子ども文庫へようこそというパンフレットで、今年度文庫を閉めたところもあるが、現在私たちが連絡を取り合っている文庫たちということでつくっている。今年度みなみ野で新しく文庫が生まれることになり、重点でいった甲斐があったと思っている。いま準備でいろんな文庫を調べて回ったりしている。文庫連は以前図書購入費の補助をもらっていたが、貸付という形になり、図書館で買った本を貸し出しを受ける、そのことがとても良く、初めて文庫を始めるが、本が買えないというのを本が団体に借りられるというので、すぐに始められるということもあって、ありがたい制度と思っています。逆に閉めるときはそれを処分していたが、返せばいいのでいい制度になったと思っています。

ます。

三浦会長

大橋委員の説明は終わりました。このことで、何かご意見ご質問などありましたらお願いします。

みなみ野はどのへんに出来るのですか。

大橋委員

七国小の保護者で自宅で家庭文庫を始めたいということで、南大沢に柏木文庫があったが、そこを閉めることになり、そこから本を少しずつ譲り受け、あと来年図書館から貸し出しを受ければ何とかできるのではないかと、着々とバザーをしたりして準備を進めています。

三浦会長

よろしいでしょうか。それでは報告事項7「2月補正予算について」事務局から説明願います。

事務局（内田中央図書館主査）

資料9について、視聴覚資料購入費が国の地域活性化住民生活に光を注ぐ交付金の対象となることから一部を、年度を前倒しして執行します。金額として12,235千円となっています。財源は全て国庫支出金。内訳は図書購入費675万円、視聴覚資料購入費548万5千円。一部を年度内に前倒しし、673万5千円が前倒しの金額となっています。年度内納入が困難なので、繰越明許を設定しています。

三浦会長

事務局の説明は終わりました。ご意見ご質問などありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは報告事項8「中央図書館駐車場の有料化について」事務局から説明願います。

望月参事

図書館が開設して26年たちますが、開設当初から課題となっており、最近では利用者が増えていることもあり、大きな課題は、駐車場に入るための渋滞ができて、狭い道路で片側車線になってしまう。住民から苦情もあり、この問題が動き始めた直接のきっかけは事故を起こしそうになったということもあり、喫緊の課

題と捉えた。長時間利用とか、駅に近いこともあり、図書館を利用しないけれど置いていく人もおり、なんとしても適正化していかなければということもある。3つめの駐車場利用によって受けるサービスの不公平感を指摘されており、自分は待ってたけれど有料駐車場に案内され、ずっといる人は無料という不公平があるという声ももらった。一日平均160台、図書館の利用者1,800人、8%の人が利用しているが、駐車場の管理経費がたいした金額ではないが300万円、交通整理をしたりするのにかかっている。1つ1つの課題を適正化していくことになるが、長時間利用、目的外利用を抑制していくこと、また、何よりも付近の道路の安全を確保していく、不公平感の解消、そういう中で民間の有料駐車場ということで貸し付けるということで決定した。運営方法は24時間開場運営するが、料金の設定は図書館利用者は近隣は20分100円なので安めに設定して図書館で認証を受け、割安料金サービスを受けられるようにしていきたい。図書館を利用されない人は周辺の倍の金額でやっていきたい。図書館の閉まったあとや開館前は通常の駐車場としてそれなりの収益を出していただき、図書館も民間の事業者からそれなりの収益をいただくという考えです。図書館の利用者はとりあえず返却のみの場合を想定して、15分までは無料という設定にしたい。身障者については2時間無料という形でやっていきたい。歳入予算として議会に提出されており、5月に契約を結び5月中旬くらいに開始したいという予定です。

三浦会長

説明は終わりました。ご意見、ご質問などありましたらお願いいたします。

時代の流れ含めやむをえないと思いますが、夜間を貸し出せるとなるとそれなりの収益があるわけですね。

望月参事

財政には強く図書費のほうに回すように言っています。

三浦会長

よろしいでしょうか。それでは報告事項9「その他」について事務局からございますでしょうか。

事務局（田中南大沢図書館長）

図書館の休館について平成23年3月22日から31日までの10日間、4つの図書館と1つの分館を全て休館とするものです。理由は市民への図書館サービスの一層の向上を図るため、更新の時期を迎えた図書館システムの機器とソフト

の全てを更新するものです。これにより窓口や電話によって行っていた貸出し期間の延長なども自宅のパソコンからできるようになり、館内の市民用開放端末（OPAC）により検索も今までよりも格段に処理時間が短くなり、一応1秒という数秒で検索結果が反映されるようになります。これに伴う周知として3月1日号広報に掲載するほか、図書館のホームページ、図書館内掲示板はすでに掲示済みです。

山崎委員

①大学教員として感じるのですが、ひとつは語彙力、ボキャブラリーが全く不足している。これはパソコンで簡単に変換できる。それがいくら発達しても絶対に増えない。そういうことに対してどのくらい多くの本を読んでいるか、他人の著作をきちんと読んでいるかが勝負になるが、残念ながら差がついている気がする。大学のように語彙力が不足しているから毎日辞書を読みなさいといってもしょうがない。手遅れなのでその意味では図書館なり大学へ行く前の本に親しむことが決定的に重要で、人間形成の上で不可欠で、IT時代となれば特に大事と思っている。

もうひとつは、幅広い教養が不足しているといわれている。受験に出てくるとしか覚えていないとか、池上彰さんに解説してもらわないということでは寂しい。自分で調べて自分で情報を得るという姿勢がどうしても必要です。最近の学生は私が見ている限り携帯もそうだが、わからないことはそのとき調べればいい、それまで知らなくてもそのとき調べればいいということだ。確かにすばらしいことだがそれだけ人間が教養なしでずっといていいのかと疑問に思っている。それだけ人間の格がどんどん下がっているような気がする。インターネットが普及すればするほど人間が貧弱になっていくようなすごく逆説のような気がする。そういう意味では学校図書館に対する皆さんの取り組みがすごく大事で、ぜひ校長、副校長、皆さんで理解していただきやっていただきたい。

②協力貸出しについて、協力貸し出しは図書館にとって非常に重要なサービスなのですが、近年ともするとないがしろにされる傾向があるように見えています。都立図書館の例を出すまでもなく、非常に目立ちにくい後方支援的なサービスですが、利用者に向かってアピールするとかということとは一線を画しているが、図書館にとってすごく重要な部分とっていて、規模の大きな図書館の役割としては非常に必要な、そういうことに対して活発にさせていただいて拠点を強くすることをぜひやってもらいたいと思います。

斉木委員

①前回300冊の団体貸出しについて、重点校に300冊を貸し出すサービス

を行うという報告があったが、実績があれば教えてもらいたい。

②1の学校配送便の運行の報告があったが、その中に反映されているのですか。

③11月に学校図書館セミナーを受けたとき、学習指導要領が大きく変わるが、国語の教科書も大きく変わっていて、学校図書館活用教育が盛り込まれていると聞いたが、指導要領が変わってくる中で図書館としても読書離れとか活字離れというのをフォローしていただけたらいいなと思います。

事務局（田中南大沢図書館長）

①配送便が始まってから300冊はありません。その前の11月のものではありません。12～3校だったと思います。

斉木委員

13校以外からそのようなものがあるならうちという話しは無かったですか。

事務局（樋口主査）

300冊で無く150冊のほうが使いやすいといった意見がありました。300冊は学校配送便が始まる予定はなかったのですが、今回の配送便の中で返却の時、次の本を持ってきてほしいというのがあったので、検討していきたい。

小林委員

学校にパソコン配置を準備しているという話があったと思うが、実施状況はどうですか。

望月参事

具体的に入ってきていない。パソコン自体は4月から入るが、データベースをどうするかというのは聞いていない。

三浦会長

次回の会議で報告していただきたい。ほかにありますか。
学校の図書館について利用も少ない気がする。みなさんいいアイデアを出し、学校のために考えてくれているので、それに学校が呼応していない気がする。ぜひそのところは子どもたちのために図書館のほうからも話していただきたいと思う。

三浦会長

ほかになれば、次回日程をお願いします。

事務局（田中南大沢図書館長）

5月25日を予定しています。

三浦会長

それでは、平成23年度 第1回の開催日は5月25日に開催いたします。

以上で、本日の会議を終了いたします。長時間のご審議をありがとうございました。

以上で終了します。ありがとうございました。

以上の会議録は、平成22年度第4回読書のまち八王子推進連絡会議の会議録に相違ないことを認めて署名する。

平成 年 月 日

署名委員

⑩